

腎臓内科

■ 1年次の研修目標

内科医としての基本的な診察・治療手技を習得し腎臓内科医としての基本診療を学ぶことと同時に、看護師・臨床工学技士・栄養士などの医療スタッフとチーム医療に参加することを目標とする。

- ベッドサイドにおける患者診療を担当できる基本的な医療面接、身体診察に習熟する。
- 医の倫理、医療安全を理解し、実践できる。
- 診療録への的確な記載、カンファレンスでの症例提示、退院サマリーの期間内提出など診療に必須の基本タスクに習熟する。
- 一般的な臨床検査、画像診断に関して基本的な所見評価が可能となる。
- 基本的な処置（静脈採血、静脈注射、静脈留置針挿入、動脈血採血、尿道バルーン留置、血液培養、胸腔穿刺など）を身につける。
- 緊急的な処置に際して、チームの一員として役割を果たすことができる。
- 輸液、体液管理を身につける。
- 腹部超音波の基本を学び、主要な疾患に関する診断力を養う。
- 主たる腎疾患の検査・治療の適応について学ぶ。
- 血液浄化法（透析・血漿交換など）の原理・適応について学ぶ

■ 2年次の研修目標

1年次に習得した内科としての基本的な診察・治療手技をベースにしながら腎臓内科の専門性を見据えた診察・治療手技を習得することを目標とする。EPOCで経験すべき腎不全・原発性糸球体疾患・全身性疾患による腎障害、特に緊急を要する疾患の急性腎不全については必ず担当すること。

- 併存する基礎疾患を含め全身的な評価を的確に行うことができる。
- 腎臓病診療に関連する基礎的検査、治療法の選択を理解できる。
- 血液浄化療法の管理の原理・適応を学び、導入症例を経験するとともに、個々の症例の全身状態に応じた設定ができる。
- 腹膜透析療法の基本を学び、導入症例を経験する。
- 腹部超音波検査を習得し、超音波ガイド下腎生検の補助ができる。
- 腎生検の病理診断の基本を学ぶ。
- 免疫抑制剤の種類・特性・副作用を学び、標準的な治療を行うことができる。
- 学会、研究会において症例報告を行う。

定期的に関われる研修医向け腎臓内科レクチャーで、腎疾患の診断、治療を理解するとともに、現在の腎臓病学の限界、発展性について学習し、さらには最先端の腎臓病学に触れる。

■ 研修が推奨される診療科

- ✚ 循環器内科
- ✚ 糖尿病・内分泌・栄養内科
- ✚ ICU・初期診療・救急科
- ✚ 病理診断科

■ 見学・問い合わせ先

当教室では随時見学を受付けていますが、回診日の月・木曜日の見学をお勧めします。

京都大学大学院医学研究科腎臓内科学事務局

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町54

TEL : 075-751-3860 e-mail: kidney2011@kuhp.kyoto-u.ac.jp